

様式 C-7-1

平成23年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）実績報告書（研究実績報告書）

1. 機関番号

6	4	3	0	2
---	---	---	---	---

 2. 研究機関名 国際日本文化研究センター
3. 研究種目名 基盤研究(A) 4. 研究期間 平成22年度～平成24年度
5. 課題番号

2	2	2	4	2	0	0	8
---	---	---	---	---	---	---	---
6. 研究課題名 「東洋」的価値観の許容臨界：「異質」な思想・藝術造形の国際的受容と拒絶
7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
40203195	イナガ 稲賀 シゲミ 繁美	研究部	教授

8. 研究分担者(所属研究機関名については、研究代表者の所属研究機関と異なる場合のみ記入すること。)

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
50324728	フジハラ 藤原 サダオ 貞朗	茨城大学・人文学部	准教授
10316234	テレングト デレツグト アイトル アイドル	北海学園大学・人文学部	教授
80334613	ハシモト 橋本 ヨリミツ 順光	大阪大学大学院・文学研究科	准教授
30340524	ハヤシ 林 ヨウコ 洋子	京都造形芸術大学・芸術学部	准教授
00441521	セン 戦 ギョウバイ 暁梅	東京工業大学・外国語研究教育センター	准教授

9. 研究実績の概要

下欄には、当該年度に実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、交付申請書に記載した「研究の目的」、「研究実施計画」に照らし、600字～800字で、できるだけ分かりやすく記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。

<p>1) 研究成果の刊行</p> <p>研究代表者による編著として、<i>Artistic Vagabondage and New Utopian Projects: Transnational Poetic Experience in East-Asian Modernity (1905-1960) :Selected Papers from the XIXth Congress of the International Comparative Literature Association, Seoul, 2010, Expanding the Frontiers of Comparative Literature, August 15-21, 2010, Chung-Ang University, Seoul, Korea</i> を科学研究費助成金により2011年に刊行。需要が多く、品切れとなったため、2012年に訂正版第2刷を増刷した。</p> <p>おなじく研究代表者による編著として『東洋意識 夢想と現実のあいだ 1887-1953』 ミネルヴァ書房 2012年 を刊行した。これらふたつは、研究計画に記載した分科会による研究成果の一部をなすものであり、研究実施計画にそって研究会を実施のうえ、編集をすすめ、計画を数ヶ月前倒して刊行を実現した。研究計画との整合性は『東洋意識』の導入部に詳しく説明を付している。両者あわせて750ページにおよぶ成果により、東西における東洋意識の成立と葛藤に鳥瞰と分析を与えた。</p> <p>2) 国際学会などでの発表・研究成果の発信</p> <p>研究代表者、研究分担者、研究協力者により、研究実施計画にそって、美術史、美学、哲学、国際文化交流など国内外の多くの学会等において、研究成果を発信した。詳細は以下の一覧表のとおり。</p> <p>3) 東西交渉史、東洋学、オリエンタリズムをめぐることは、研究代表者は2012年3月にカナダのトロントで開催された全米アジア学会で、討論者に招聘され、またそれに続きオーストラリアのシドニー大学で開催された「すべては海に：海賊・インド洋と美術史」において基調講演を行った。これらは性質上、以下の「学会発表」にはカウントしないが、異文化の異質性許容と同質性拒絶との臨界に関して、歴史的分析に立脚した将来への展望を与えるものとして、関連部会、主催者より評価された。</p>
--

10. キーワード

(1) オリエンタリズム	(2) 東洋学	(3) 東西交渉史	(4)
(5)	(6)	(7)	(8)

11. 現在までの達成度

下欄には、交付申請書に記載した「研究の目的」の達成度について、以下の区分により自己点検による評価を行い、その理由を簡潔に記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。
 <区分>①当初の計画以上に進展している。 ②おおむね順調に進展している。 ③やや遅れている。 ④遅れている。

(区分) ①当初の計画以上に進展している

(理由) 研究分担者、研究協力者による当該研究課題成果をとりまとめた成果報告書の一部を『東洋意識：夢想と現実とのあいだ』（ミネルヴァ書房、2012年）として、計画第2年度年度末に予定前倒しで編集し、最終年度開始時点で公刊した。また、欧文による成果論集の一部をなす論文集、Artistic Vagabondage and New Utopia Projectsへの需要が当初の見込みを越えたため、一部内容を改訂し科学研究費補助金により増刷した。これらを計画年度最終年のはやい段階で、研究者共同体に対して発信し、学会などの関係者からの反応を入手しはじめている。これらの応答に基づき、最終年度には、当初の計画を超えて、次のステップを準備する段階を迎えており、それに沿って今後の研究を推進できる見通しが得られている。その一部は、以下12.に記載する。

12. 今後の研究の推進方策

本研究課題の今後の推進方策について簡潔に記述すること。研究計画の変更あるいは研究を遂行する上での問題点があれば、その対応策なども記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。

すでに本研究が目標とする課題にかかわり、一定の成果が出始めており、その一部を研究者共同体にむけて発信できる段階に漕ぎ着けた。これを受け、最終年度には研究分担者を研究代表者勤務先以外の研究者に限定し、より焦点を絞った直接経費配分を行う。とりわけ研究分担者、研究協力者からの要請に応じて、重点的に研究会を実施し、また国外調査、国外学会などへの派遣に対応する方針とする。

研究代表者は、6月にフランスの国立美術史研究センター関連の事業、また7月にはカナダ・オンタリオ州におけるブロイニンガー財団主催の国際研究集会、さらには9月には米合衆国シカゴで開催予定の国際比較文学会理事会併設の国際学会、8月末にはフランスのレンヌ大学における国際研究集会において、本研究の成果の一斑を国際的な研究者にむけて発信する予定である。これらの成果はいずれも会期終了後、論文集へと収録の予定である。

13. 研究発表（平成23年度の研究成果）

※ 「13. 研究発表」欄及び「14. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況」欄において記入欄が不足する場合には、適宜記入欄を挿入し、それによりページ数が増加した場合は、左端を糊付けすること。

〔雑誌論文〕 計(5)件 うち査読付論文 計(3)件

著者名	論文標題				
稲賀繁美	「星と修羅と自己犠牲—宮澤賢治の心象へのいくつかの補助線」 2				
掲載論文集名	査読の有無	巻	発行年		最初と最後の頁
プラット・アブラハム・ジョージ 小松和彦編 『宮澤賢治の深層—宗教からの照射』 法蔵館	有		2	012	391-426
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)					

著者名	論文標題				
Shigemi Inaga	"História da arte é globalizada? Um comentário crítico de um ponto de vista Extremo Oriente				
掲載論文集名	査読の有無	巻	発行年		最初と最後の頁
Christine Greiner, Marco Souza orgs., <i>Imagens do Japão</i> , Annablume,	有		2	011	55-85
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)					

著者名	論文標題				
Shigemi Inaga	"Philosophy, Ethics and Aesthetics in the Far-Eastern Cultural Shpere: Recetions of the Western Ideas and Reactions to the Western Cultural Hegemony"				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年		最初と最後の頁
Shigemi Inaga ed., <i>The 38th International Research Symposium: Questioning Oriental Aesthetics and Thinking: Conflicting Visions of "Asia" under the Colonial Empires</i> (東洋美学と東洋的思惟を問う：植民地帝国下の葛藤するアジア像), International Research Center for Japanese Studies,	有	27	2	0 1 1	31-45
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)					

著者名	論文標題				
佐野真由子	ロンドン万博へ続く道——八六——(文久元)年のオールロックの旅と日本の『開国』				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年		最初と最後の頁
明治聖徳記念学会紀要	無	復刊第48号	2	0 1 1	91-109
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)					

著者名	論文標題				
Mayuko SANO	La politique culturelle du Japon				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年		最初と最後の頁
Pour une histoire des politiques culturelles dans le monde: 1945-2011	無		2	0 1 1	347-369.
掲載論文の DOI (デジタルオブジェクト識別子)					

【学会発表】計 (7) 件 うち招待講演 計 (5) 件

発表者名	発表標題		
Shigemi Inaga	"Yashiro Yukio (1890-1975) between the East and the West in Search of an Aesthetic Dialogue,".		
学会等名	発表年月日	発表場所	
Aesthetics in the World, First Polish-Japanese Meeting (招聘講演)	May 23-24, 2011	Cracow, Poland	

発表者名	発表標題		
Shigemi Inaga	"Rabindranath Tagore and Japan : From Bengali Art Renaissance to Criticism of Japanese Nationalism" .		
学会等名	発表年月日	発表場所	
Asia after Tagore, the Legacy of Rabindranath Tagore: A Two-Day International Seminar organized by the Friends of the Kern Institute (VVIK) (招聘講演)	Sep. 23-24, 2011	University of Leiden, The Netherlands	

発表者名	発表標 題	
Shigemi Inaga	“Reception of Hokusai in the West: from Philippe Burty to Henri Focillon (1862-1925) with special focus on “Manga Jasienski”,	
学会等名	発表年月日	発表場所
Symposium Hokusai in context Asia, (招聘講演)	October 14-15, 2011.	Japanisch-Deutsches Zentrum Berlin, BRD

発表者名	発表標 題	
Shigemi Inaga	“Japanese Philosophers go to the West: Effects of Maritime Trip to the Philosophy in Japan,”	
学会等名	発表年月日	発表場所
International Conference, Japanese Philosophy as an Academic Discipline: Research and Teaching (招聘講演)	December 10-11, 2011.	Chinese University of Hong Kong, Hongkong

発表者名	発表標 題	
Shigemi Inaga	“Fracturing the translation or translating the fracture? Questions in the Western Reception of Non-Linear Narratives in Japanese Arts and Poetics,”	
学会等名	発表年月日	発表場所
Fractured, Transformed Travelling Narratives in Writing, Performance and the Arts Colloquium The Pinter Centre, Department of Drama, Department of English & Comparative Literature at Goldsmiths, the BCLA and the AILC/ICLA, (学会理事として発表)	September 16-17, 2011.	Goldsmiths, University of London,

発表者名	発表標 題	
佐野真由子	『万国博覧会の日本』を誰から見るか—1862年第2回ロンドン万博を事例として	
学会等名	発表年月日	発表場所
新潟大学19世紀学研究所シンポジウム (招待講演)	2011年11月12日	新潟大学

発表者名	発表標 題	
佐野真由子	上海からロンドンへ、第1回 (1851)・第2回 (1862) ロンドン万博と中国・日本	
学会等名	発表年月日	発表場所
国際日本文化研究センター シンポジウム	2011年10月1日	国際日本文化研究センター

〔図 書〕 計 (2) 件

著者名	出版社		
稲賀繁美 (編著)	ミネルヴァ書房		
書名	発行年	総ページ数	
『東洋意識 夢想と現実のあいだ 1887-1953』	2 0 1 2	594	

著者名	出版社		
Shigemi Inaga 稲賀繁美 (編著)	科学研究費助成金による印刷 (増刷訂正版第2版)		
書名	発行年	総ページ数	
Artistic Vagabondage and New Utopian Projects: Transnational Poietic Experience in East-Asian Modernity (1905-1960) :Selected Papers from the XIXth Congress of the International Comparative Literature Association, Seoul, 2010, Expanding the Frontiers of Comparative Literature, August 15-21, 2010, Cung-Ang University, Seoul, Korea	2 0 1 2	138	

14. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

【出願】 計 (0) 件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	出願年月日	国内・外国の別

【取得】 計 (0) 件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	取得年月日	国内・外国の別
				出願年月日	

15. 備考

※ 研究者又は所属研究機関が作成した研究内容又は研究成果に関するwebページがある場合は、URLを記載すること。

http://www.nichibun.ac.jp/~aurora/inaga/index.php?2010-2012%20Nichibun%20IR
CJS